

茶草の肥料成分からみた有機物特性

〔研究のねらい〕

- ・静岡県では、茶園周辺の茶草場からススキ、ササなどを定期的に刈りとり茶園に施用する伝統的生産体系が、広く行われている。県内4市1町の茶草場は、茶生産と生物多様性を両立させる「静岡の茶草場」として、2013年に国連食糧農業機関(FAO)の世界農業遺産認定を受けた。
- ・茶草施用による土壌への効果は明らかでないことから、茶草の肥料成分からみた有機物特性を明らかにする。

〔研究の成果〕

- ・県西部地区を中心とした6地区18点の茶草の肥料成分を分析した。全窒素は、最大1.3%、最小0.4%、平均0.76%、全リン酸は、最大0.4%、最小0.07%、平均0.25%、全カリは最大1.8%、最小0.7%、平均1.35%だった。窒素分、リン酸分は低く、全カリは高いことが明らかになった(図1)。
- ・全窒素、全リン酸、全カリの数値は、稲わら、ススキの肥料成分と類似した(表1)。
- ・有機物分解の目安となるC/N比は、最大107、最小32、平均62であり、ススキ、稲わらの数値と類似した(図2)。茶草はススキや稲わらと同等の有機物特性を持つといえる。

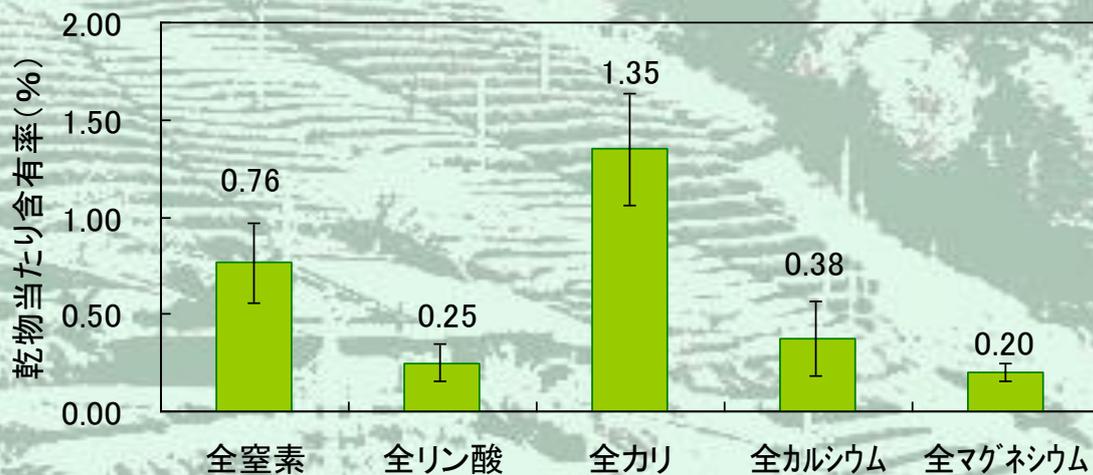


図1 茶草の肥料成分含有率(県内6地区18点の平均)

注)エラーバーは標準偏差

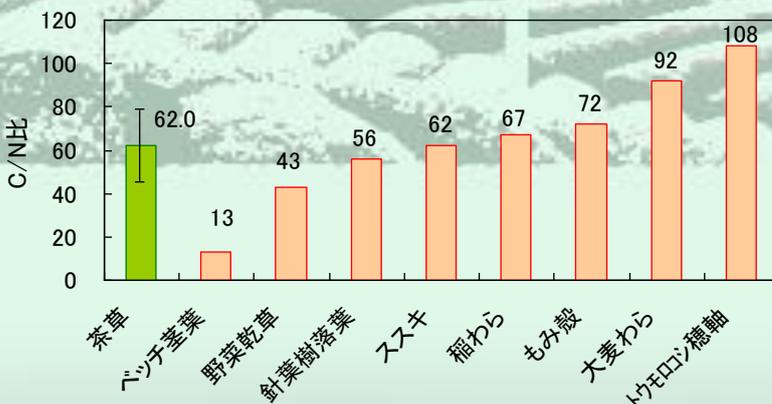


図2 茶草(18点の平均)及び他植物のC/N比

注)茶草は18点の平均。他の数値は静岡県土壌肥料ハンドブック参照

表1 稲わら、ススキの肥料成分含有率(乾物)(%)

	全窒素	全リン酸	全カリ
稲わら ^{注1)}	0.62~	0.19~	1.38~
	0.74	0.35	2.17
ススキ ^{注2)}	0.77	0.38	1.5

注1) 静岡県土壌肥料ハンドブックより

注2) 鬼頭ら: 土肥誌(1992)